

エアミス
Airmys

非実在 探偵小説研究会

15
号



エアミステリ研究会

非実在探偵小説研究会15号 目次

企画

企画1 ミステリ・ショート・ショート

そして誰もいなくなった後で

猿人荘の殺人

エロゲ的後期クイーン問題

繁食

悪魔の滑稽歌

中に出す

偽作 瓶詰の地獄

悪魔は紳士と限らない

栄光ある図書委員の活動

君と同じ夢を見る

クイーン陛下の統べる国

企画2 二〇一七年度エアミス研ミステリランキング

その他

〈連載〉富士見ミステリー文庫ガイド 第六回

ないとー

麻里邑圭人

..... 6

神崎蒼夜

..... 10

麻里邑圭人

..... 15

足住公達

..... 19

佐倉丸春

..... 23

麻里邑圭人

..... 28

紫藤はるか

..... 32

佐倉丸春

..... 36

嘉祐一

..... 42

麻里邑圭人

..... 46

根倉野蜜柑

..... 51

..... 57

64

表紙・扉ページ

ウスタアヤ

企画1

ミステリ・ショート・ショート

今回のお題競作企画は「ミステリ・ショート・ショート」です。

既刊を読んだ事がある方はご存知と思いますが、今までも、ショート・ショート作品を本誌に掲載してきました。今回は「特にミステリ色の強い物を」という方針で特集する事にし、皆さんには作品を書いてもらいました。ここで言う「ミステリ色」とは、単純に謎解き要素などを組み込んだ物、十戒をはじめとしてミステリファンなら知っている「お約束事項」をネタにアレンジした物など、ミステリと何らかの形で関連がある作品、という形式でお願いしています。また、本企画では一人複数作の提出も可としております。

結果、初参加の方含めて7名、11作品、色んなテイストの作品が集まりましたので、どうぞお楽しみください。

そして誰もいなくなつた後で

麻里邑圭人まりむらけいと

……目が覚めると、私の前には男のものと思われる死体が転がっていた。思われる——というのは、その死体には顔というものが存在しなかつたからだ。

死体は、赤々と燃える暖炉の中に頭を突つ込むようにして倒れていた。試しに暖炉から引つ張り出してみると当然のことながらその顔面は燃え盛る炎による蹂躪の跡が著しく、もはや生前がどんな顔だつたか窺い知るのが極めて厳しい状態だつた。加えてよく見ると後頭部には鈍器で殴られたと思しき酷い裂傷があつた。

もしこれを普通の人間が見たら十中八九取り乱すところだろう。だが私は僅かに眉をひそめただけで、全くと言つていいほど動じなかつた。ただ、この死体にはどこか見覚えがあるような気がした。

(気のせい? いや、確かどこかで……)

私はまだくらくらする頭を軽く振ると、意識を失う直前に何があつたか、記憶の糸を辿り始めた——。

*

あれは一週間前のこと——二月も半ばに入つて一段と寒さが増した日曜日の夕方、私は懇意にしている富豪から町はずれにある湖の周辺で起きている事件の調査を依頼された。なんでもここ半年、湖の周辺では十代から二十代の若者たちによる謎の失踪事件が続発しているというのだ。その理由は全くもつて不明で、ただでさえ多忙な警察では死体もないことから年頃の若者にはよくある家出事件として処理していた。そんな時、問題の湖の近くにあるキャンプ場に富豪の一人娘が春休みを利用してハイスクールの仲間たちと共に遊びに行く話を持ち上がった。まともな思考回路を持ち合わせた親であれば、心配になるのも仕方がないというものだろう。

そして一週間後の今日——ようやく他の案件を片付けた私は、まずキャンプ場へと向かつた。しかしながら時期はずれということもあつてキャンプ場には人気がなく、閑散としていた。私は少し考えた後、キャンプ場の近くにある別荘の住人から話を聞いてみることにした。一瞬こちらも人がいなかったらどうしようという不安が頭を

よぎったが、幸い別荘には人がいた。ただ……何だか様子がおかしかった。最初、私がいくら玄関の呼び鈴を押しても住人は決して出てこようとはしなかった。だが私が立ち去ろうとすると、慌てたようにドアが開き、一人の若い男が姿を現した。

「ま、待つてください……！」

男はよろよろとした足取りで私に近づいてくると、逃がさないというように私のコートの裾すそを掴んだ。それから、すがり付くような眼差しを私に向けて「僕を……僕を助けて下さい！」

「助けて下さいって、一体どういう……？」

私は素早く男を観察した。年は二十代前半くらいか。

私と同じ中肉中背の体型で、下は紺のジーンズ、上はその手には疎い私でも見覚えのあるネズミのキャラクターがプリントされたクリーム色のセーターを着ている。だが、よく見るとそのセーターには所々に赤黒い染みが付いていて、ただならぬものを感じさせた。

私は事情を察した体で頷くと、できる限り優しい口調で男に話しかけた。

「……分かりました。お話を聞きましょう。一体何があつたというのです？」

「く、詳しい話は中で……」

私はもう一度頷くと、男の言葉に従い、別荘の玄関へ向かつて歩き出した。その背後から男が付いてくる気配がする——と、思った次の瞬間だった。ガツンと頭に強い衝撃を覚えると同時に、急速に意識が遠のいていく——。

意識を失う寸前、最後に覚えているのはどこに隠し持っていたのか、カナヅチを手にしてこちらを見下ろす男の姿と「これでようやくあいつから逃れることができる」という光明を見出だしたような男の声だった。

*

続きは

「非実在探偵小説研究会15号」
でお楽しみ下さい。

企画2 2017年度エアミス研ミステリランキング

エアミス研研究会が選んだ2017年度のミステリランキングです。2016年9月～2017年10月の間に発売された国内ミステリ新刊書を対象としています。投票者が選んだ5作品を1位：5点、2位：4点…5位：1点として集計しました。

各作品レビュー：麻里邑主人

第1位 今村昌弘「屍人荘の殺人」【69点】

第27回鮎川哲也賞受賞作にして今年度を代表する傑作。ホラーではお馴染みの設定を使ってこれまでにないクローズドサークル本格に仕上げた手腕もさることながら、新人離れした筆致で描かれるこの設定ならではの仕掛けの数々は正に圧巻の一言に尽きる。

第2位 阿津川辰海「名探偵は嘘をつかない」【33点】

光文社による本格ミステリ限定の新人発掘プロジェクト第一弾。名探偵の弾劾裁判という異色の設定を扱った本作は些か粗があるものの、作者が敬愛する逆転裁判シリーズとミステリマニアらしいネタを巧くミックスした力作と言っていいだろう。

第3位 早坂吝「双蛇密室」【31点】

援交探偵・上木らいちシリーズの四作目は社会派とエロミスの融合を目指した前作「誰も僕を裁けない」から一転、再びデビュー作のような凄まじいバカミスの真相と前代未聞の真犯人で読者を唖然とさせる怪作。ある意味、非常にメフィスト賞作家らしい作品である。

第4位 東川篤哉「探偵さえないなければ」【16点】

烏賊川市シリーズの短編集第三弾。作者の持ち味であるギャグの中に巧妙に隠された伏線とありふれたトリックを光らせる意外な見せ方が最大限に活かされた本作は全編ハズレなしであり、特に推協賞候補作にもなった「ゆるキャラはなぜ殺される」が秀逸。

第5位

市川憂人「ブルーローズは眠らない」／古野まほろ「禁じられたジュリエット」／米澤穂信「いまさら翼といわれても」【15点】

「ブルーローズは眠らない」はデビュー作「ジェリーフィッシュは凍らない」に続くシリーズの二作目。バラの蔓で覆われた密室状態の温室、切断された首と血文字などいかにも本格らしい道具立ては前作と同様だが、謎の魅力と詰め込まれたトリックの量は前作以上の秀作である。

「禁じられたジュリエット」は本格ミステリとはいかなる物語なのか、論理は真実に到達可能なのかを突き詰め、美しい理想を掲げてみせた作者渾身の一作。

「いまさら翼といわれても」は久々の古典部シリーズ新作で「クドリヤフカの順番」の後日譚とも言うべき「わたしたちの伝説の一冊」など謎を通して浮かび上がる人間ドラマに喩らされる。

第8位 二階堂黎人「巨大幽霊マンモス事件」【14点】

作者の看板探偵・二階堂蘭子シリーズ新作は作者らしからぬ仕掛けで心地よく騙してくれる企みに満ちた傑作。作者の短編代表作「ロシア館の謎」の続編に相応しい出来であると同時に作者の新たな代表作と言っても決して過言ではないだろう。

第9位 詠坂雄二「T島事件」【10点】

孤島で起こった連続死の謎に挑む作者久々の長編本格ミステリ。しかしながら本作は本格ミステリと言い切ってしまうといいものかどうか迷うほどの曲球であり、その歪さに思わず読者が苦笑いするところまでが計算通りという何ともタチの悪い問題作である。

第10位 伊坂幸太郎「ホワイトラビット」【8点】

「ミステリー感のある、エンタメらしい、エンタメを」と人気作家が楽しさを追求したミステリー。「白兔事件」という人質立てこもり事件が泥棒の黒澤などの登場人物たちの視点移動により、魅力的な事件に変貌していく。大胆不敵な騙しが圧巻の傑作。

《11位以下の作品》

【7点】 相沢沙呼「マツリカ・マトリョシカ」

【5点】 青木知己「Y駅発深夜バス」／古処誠二「いくさの底」／鳥飼否宇「紅城奇譚」／長岡弘樹「教場0」／森川智喜「バベルノトウ 名探偵三途川理 vs 赤毛そして天使」

【4点】 天祢涼「希望が死んだ夜に」／有栖川有栖「狩人の悪夢」／中山可穂「ゼロ・アワー」／矢樹純「がらくた少女と人喰い煙突」

【3点】 青山文平「遠縁の女」／彩坂美月「金木犀と彼女の時間」／綾辻行人「人間じゃない 綾辻行人未収録作品集」／井上真偽「探偵が早すぎる」／伊吹

亜門他「監獄舎の殺人 ミステリーズ！新人賞受賞作品集」／階知彦「シャーベット・ゲーム 四つの題名」／小林泰三「わざわざゾンビを殺す人間なんていない。」高木敦史「のど自慢殺人事件」／辻真先「義経号、北溟を疾る」／西澤保彦「悪魔を憐れむ」／はやみねかおる「ディリュージョン社の提供でお送りします」／柚月裕子「盤上の向日葵」

【2点】 河合莞爾「スノウ・エンジェル」／河野裕「凶器は壊れた黒の叫び」／貴志祐介「ミステリークロック」／高井忍「名刀月影伝」／円居挽「その絆は対角線」／三上延「ビブリア古書堂の事件手帖7～葉子さんと果てない舞台～」

【1点】 家原英生「（仮）ヴィラ・アーク 設計主旨」／浦賀和宏「ifの悲劇」／加藤元浩「捕まえたもん勝ち！2 量子人間からの手紙」／酒井田寛太郎「ジャナ研の憂鬱な事件簿」／橘ユマ「うさぎ強盗には死んでもらう」／似鳥鶏「彼女の色に届くまで」／葉真中顕「政治的に正しい警察小説」／円居挽「逆転裁判 時間旅行者の逆転」





非実在探偵小説研究会～Airmys～15号

発行日 2018年5月6日
発行 エアミステリ研究会
連絡先 airmysdj@gmail.com
 <http://www43.atwiki.jp/airmys-dj/>
価格 400円
印刷所 株式会社ポプルス

Special Thanks

編集作業をお手伝いして下さったエアミス研有志メンバー

©2018 エアミステリ研究会 作品の著作権は各著作者に帰属しています